

教育

一般社団法人 現代教育研究協会

会 報

54

題字 榎本頼兼氏

(平成8年～平成20年 京都市長)

発行所

一般社団法人 現代教育研究協会

〒605-0981

京都市東山区本町4丁目131

クリスタルハイツ1F

印刷所 株式会社 洛陽

今自分で考えることの大事さ ～現代教育研究協会の役割～

会長 梶村健二



新元号「令和」に決定

日頃は現代教育研究協会の様々な活動にご理解ご協力いただきまして厚くお礼申し上げます。今年一月以降は色々なことが平成最後の年という冠をつけて言われています。四月一日発表されました新元号は「令和」ということに決定しました。五月一日からはこの新元号が始まります。この「令和」という元号は、「大化」(六四五

年)から数えて二四八番目に当たり出典は「万葉集」で、中国古典ではなく、国書から採用したのは確認できる限り初めてであるとのことです。この決定が報道されるや町は大変な騒ぎで、多くの国民からは平和な時代が続くようにと好感をもって受け入れられているという報道がされています。もちろん個人的には様々な思いがあるでしょうが、この新しい元号の制定を契機に、今少し冷静になってこの国のありようやこれからの進むべき道を考えていこうと思っています。

自分の頭で考える

先日、銀行のATMでキャッシュカードを使って現金を出そうとしたのですが、カードを機械が読

み込むことができませんでした。銀行で相談したところ、カードが長年の使用で磁気を読み取り不可能になったため、新しく作り直すしかないということになりました。再発行に必要な書類をもらって帰り、次の朝銀行に持参しました。銀行に行くとき書類に押印していたので印鑑は持参しませんでした。カウンターで書類を出して昨日の事情を説明しました。対応の若い女性の行員が書類を確認する中で、再発行申請書に訂正印がないのでそこにも押印が必要だと言いました。最初どが修正した箇所なのかわからなかったの、郵便番号の605の最初の6を0に少しなぞって書いていました。昨日書いた時点で、郵便番号と電話

番号とを勘違いして075の0と書きかけて気がつき0を6にしたところの箇所でした。確かにそこだけ少し二重になっていたのですが、6と読めるしその下の欄に住所はきちんと書いていました。それで私は、そのように説明し、正しい住所も書いてあるのだから聞きました。すると彼女は確認のため奥に行ってきたが、戻ってきても「この書類には一切訂正印なしでは訂正ができません」の一点張りでした。なぜという質問にはまったく答えず訂正印が要するということだけでした。印鑑を持つていかなかったので仕方なく自宅に戻り訂正印を押して出直すことにしました。もちろん銀行ですの、すべての人に同じ対応をする必要があり、また、キャッシュカードの再発行という大事な書類ですので、厳密な点検、対応が必要なのは理解できます。その上でたとえば郵便番号の一字が不鮮明でも誤った住所にいつてしまう可能性があるとといったような訂正印の必要性を自分の言葉でしっかりと説明してもらってれば納得できたと思います。残念ながらそうした対応はされませんでした。この行員の方にとっては決められたマニュアルどおり処理することが大事だと教えられていて、自分で考えることはまったくなかったのだと思います。印鑑を持参していただければ済んだことではありますが、もう少し自分で考えた丁寧な対応をしてもらいたかったと思った次第です。この事例ですべて行員がマニュアルだけで対応をしようとしているとは判断しませんが、いろいろな接客業の窓口対応がややもするとそうした傾向にあるのでは

ないかと懸念します。これは指導する側の問題でもありますが、現に顧客対応をする個人の問題でもあり、マニュアルに示された範囲で自分の頭で考え、自分の言葉で話すことが大事ではないかと思いました。こうしたことにより人と人との理解し合える基本になるのではないのでしょうか。

今年ラグビーワールドカップが日本で開催されます。ラグビーの本場ニュージーランドで二十五年以上選手、コーチとして活躍している竹内さんという方が新聞に載っていました。ニュージーランドのラグビーの強さの根底には「自分で判断し、行動して責任を取るという方程式」があると話されていたのが印象的でした。周りに流されることなく、自分で考え、判断し、行動することを小さなことから積み重ねていくことの重要性を改めて感じました。

現代教育研究協会の 今後の活動拠点

現代教育研究協会の運営については旅館「銀閣」の改修に伴い、昨年から貸会場での研修会の実施や東山区のマンション二階の部屋を会議室として借りて事務をしているところ、昨秋に協会の活動拠点として改修後の「銀閣」の活用について便宜を図って頂けるとのお話があり、今後条件等について調整が必要ですが、来年春からは新しい「銀閣」を拠点として活動できるのではないかと考えており、ご報告させていただきます。多くの会員の皆様方に研修会に参加して頂き充実した豊かな活動となるよう今後とも研修内容、運営について改善に努めてまいります。で、よろしくお願ひ申し上げます。

第一回講演会 平成三十年五月十九日(土)

学校現場の喫緊の現状とこれからの生徒指導

京都府教育委員会指導部担当部長
(京都府教育相談総合センター所長兼職)

池田 忠氏



と今の子どもたちの対応は難しくなっています。

成人式から見える成人の変化

今年度の成人式では、振袖騒動「はれのひ」トラブルがあり、世間を騒がしました。私が平成十四・十五年度の成人式に参加した頃は、他府県でも荒れる成人式とニュースに大きく取り上げられていました。次に成人式に参加したのは平成二十七年生徒指導課に戻った時です。そこでは、ケンカして流血による逮捕者は減少し、一気飲みから一口飲み、喫煙から電子タバコ、ごみも減ってきていました。酔えばタクシーで帰宅するといった様子に代わっていました。一番驚いたのは、保護者の引率がすごく増えてきたことです。母親が招待状の葉書きを持って受付に来られるといったように変わっていました。

はじめに

こんにちは。今日は、インターネット関係・命に係わる事案関係・問題行動の低年齢化・薬物乱用ということで大麻の関係・規範意識関係など学校現場の先生方にお伝えしています。時々頭の体操をしながら進めていきます。(写真提示「ウイソンのつば」見方を変えるとツボが二人の女性に見えます。大人として教師として、見方を変えない

度にしたったことが原因と考えられる事件が発生するなど、子どもたちの間に「新しい荒れ」というべき状況がみられる。「新しい荒れ」の特徴として、関西外国語大学の新井肇教授によると①非行傾向のある生徒と普通の生徒の境が見えにくい。②自分自身の苛立ちや不安がなかなか抑えられない。③学校や教師が大切にしてきた常識や規律と生徒(保護)との間に大きなズレがみられる。④周りに生徒理解が難しい行動をとる生徒の存在が現れる。(発達障害への理解)

最近の子ども・若者言葉とネットでの書き込み等の事例

①「KY」恋の予感。「JK」女子高校生。「KS」既読スルー、無視する。「CB」超微妙。「フロリダ」風呂に入るの、離脱(返信できない)。
②言葉短縮して「る」をつける。「シジョる」四条に行く。「タクる」タクシーで行く。「トホる」徒歩で行く。「マクる」マクドナルドに行く。「ハゲる」ハーゲンダッツに行くは、すべて動作を表す言葉です。強調するときは、最近「正」をよく使います。それ以外に「超」「バリ」「メッチャ」「マジ」を使います。一方で情緒的・感情的表現で「ビミョウ」「私的には」を使います。「ヤバイ」はいい意味で使います。「ビミョウ」を使うときは、自分の意見を求められた時、相手から受け入れられない可能性がある場合に使います。
③数字を使つて、「93262」臭いやつ。「16262×2」嫌な奴。「37564」皆殺し。「56219」殺しにいくと使っています。

次に、SSWのトラブル

事例…A子が「日曜日の映画バスで行く」。B子は「私はバスにする。A子と一緒にこう行こう」。C男は「僕とD男はチャリで行く」。D男「いや」。E男「じゃあ、早く着いた人がチケットを買おう!」。その日の夜、F男が「俺も一緒に行きたい」と参加してきた。C男が「何で行くの」と返してきてトラブルになった。交通手段を尋ねていることが、F男は何でお前が来るの?と捉えてトラブルになった事例です。

ベネッセ教育総合研究所の調査(子どもの生活実態調査から)

「仲間外れにされないように話を合わせますか」の間に、「はい」と回答した割合は二〇〇四年の調査で高校生約39%、中学生約43%、小学生約47%。二〇〇九年調査では、高校生約42%+2%、中学生約44%+1%、小学生約52%+5%と生まれが新しい世代ほど仲間の反応を気にする調査結果が出ました。

この調査結果について筑波大学土井隆義教授のコメントがついています。現在の子どもたちは、大人も驚くほどの高感度な対人アンテナを常に張り巡らせており、フィードバックの合う相手とだけ親密な関係(親密性)を築こうとしている。この緊密な関係の中、人間関係を大切に、その維持に大きなエネルギーを傾ける。LINEでいつも繋がっていないと不安であり、メールが来ればすぐに返事を返さないと「外されるのではな

いか」という不安を持っている。この様に子どもたちは友人関係に異常なまでに細かく気を配り合っている。潜在的な対立感情を顕在化させないよう友人関係に気を配っている。かつての親友は、自分の思いをストレートにぶつけることのできる相手であったが、今の子どもは親友とはむしろそのような感情を抑え込まなければならぬ相手となっている。

学校現場の先生方等への研修会

(1)教員志望の大学生の授業

事例…「校内でタバコ吸っている生徒を発見した。あなたはどうしますか。」と提示し、学生の対応は、①今日は運が悪い日だ。自身に言い聞かせ、何もせずにその場を立ち去る。(○人)②生徒指導の先生に連絡しますと言って、その場を立ち去る。(○人)③タバコはダメと注意する。(九割九分)④その他「いきなり注意すると殴られたら困るから静観する。」の答えにショックでした。注意だけでなく煙草を取り上げるくらいの気概が欲しいです。

(2)管理職研修会

指導主事と若手教員のやり取りを紹介しました。事例…二人の児童A・Bがケンカをしました。二人から事情を聞きとる際の留意点は何ですか?教員は「個別に聞き取りを行う。」主事が「一人で聞き取りですか。」の問いに教員は「複数対応で聞き取りをします。」とセオリー通りの答えをしました。視点を改めて主事が「ど

うしても一人で聞き取りをしなればならないときはどうしますか。」の問いに教員は「公平に聞き取りを行います。」と答えました。そこで主事は「公平とはどういう聞き取り方ですか。具体的に」は？」の問いに教員は答えられませんでした。若い教員は、公平にだけイメージにあつて具体的に聞き取り取ればいいイメージで示し、具体的な方法を指導・助言していかないとイメージが持てないことをお話ししました。

(3) 生徒指導主任・生徒指導主事(部長) 研修会

事例①「A男が前の座席のB男の足を蹴る。B男はケガ等ない。(腫等ない)。担任の対応は、A男に事情を聞くも特に理由がない。担任の指導はA男を指導してB男に謝罪させた。」

さて、「A男の保護者への連絡はどうしますか。」「電話で済ますか家庭訪問をしますか。」に、生徒指導主任・主事は、家庭訪問しますとセオリー通りに答えました。「家庭訪問に行くときの生徒指導主任・主事(部長)として担任へ家庭訪問の留意点やアドバイスは何ですか。」の問いに、指導し謝罪させたことを伝えればいいのかと考えていました。A男は、足を蹴った理由を「特にない」と言っていることに注目できるかどうかです。担任を信頼していなくて言えない場合もあります。そのことを踏まえて保護者とどう向き合い話し合うか具体的な方法、家庭訪

問の不易な部分が先輩教員から伝わっていないことが課題です。

最後に

事例②「二人はどんな関係ですか。」「登り坂を二人の人が荷車を移動させている。前にいる大人がそれを引っ張り、子どもは後ろから押している。その様子を見ていた人が、前の人に尋ねた。「後ろで押している人は、あなたの子どもさんですか。」「はいそうです。十歳になる息子です。」その人は、今度は後ろの人に尋ねた。「前で引っ張っている人はあなたのお父さんですか。」「ともどもありません。違います。」

さて、二人の関係は？「前の人はお母さん」

教育、子育てに大切な視点は多角的視点(複眼的視点)で子どもを見るのが一番大事です。思い込まない。先入観で判断しない。今まで実践してきたことがすべて正しいとは限らない。

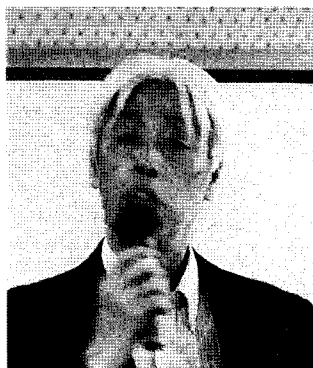
私の好きな言葉に三Mがあります。(M)黙して、(M)見て、(M)待つが好きです。子どもは人生で三種類の教師との出会いがあります。最初の教師は親であり、次に教師であり、最後が社会です。私の好きな言葉に「教育は一瞬にして永遠なり」があります。子どもたちとの関わりは一瞬です。子どもにとっても出会いが全て教育です。親や教師は子どもの鑑であり、子どもは親や教師の写し鏡であるかなと思います。

第二回講演会 平成三十年八月二十五日(土)

みやこ 京・いしぶみ探訪く教育の心をたずねてく

佛教大学教育学部教授

生 田 義 久 氏



第二回講演会は、前京都市教育長生田義久氏から「京・いしぶみ探訪」についてご講演いただきました。沢山の石碑(いしぶみ)を調査研究された一部ですがご紹介します。

今日は今年三月にまとめることができた「京都市域に所在する『教育碑』」について総合的考察(1)、「(2)」を基に話をさせていただきます。私と碑(いしぶみ)との出会いですが、四年前に退職した時、先ず最初に平安京から今日までに至るまでの京都市教育の年表である「京都市教育一二二二年の軌跡」を作成しました。その作業の途中でいろいろな節目の出来事や建物、人物に関連し様々な碑があることに改めて気づき、二年間

に亘って調査研究を行いました。一つ一つの碑にはそれぞれに時代背景の下で、建立者の意図や物語があり、また一連の碑を全体として俯瞰したとき、京都市教育の特色や教育風土といったものが見えてきます。碑自体に文化的な価値があるものは多くはありませんが、市民にとって一基一基が貴重な文化資源です。私は、「碑は、現在から過去、未来に繋がっていくタイムカプセルの出入り口」と言っています。

「教育碑」とは何ぞや? ということですが、京都市域にある石碑の総数は、一四九二基を数えます。京都市歴史資料館が「いしぶみ」の詳細なデータベースをHPにアップしています。今回、京都市域で一九五基を教育碑として調査研究の対象としました。内訳は、「いしぶみデータベース」の中からピックアップしたものが一二一基、それ以外の資料、文献、HPから独自に拾い出したものが七十四基となっています。

教育碑の定義として、三つの条件を作りました。一つ目は、何らかの形で教育、学びの場、生涯学習に関連するもの。二つ目は、石

碑ですから「石製」が多い訳ですが、金属や木製も含め素材にはこだわらない。三つ目は、通常の学校には周年記念碑や校訓を刻んだ碑が必ずといっていいほどありますが、それらは対象外としました。内容は多種多様ですが、大別すると、学校など教育施設に関わるものが二〇基、個人や団体・機関の業績を顕彰する碑が五十二基と、施設関係のものが多くなっています。特別なものとしては、全国的に共通のものです。明治天皇等の行幸・行啓関連の碑が十三基、天災等の犠牲となった教師や子どもたちを慰霊する碑が十基ありました。

教育碑の建立時期はほとんどが明治時代以降であり、一番多いのが昭和に建立されたもので約四割占めています。最古の碑は江戸時代のもので、一基ありました。鞍馬二ノ瀬の地にある「奉先堂碑」です。徳川家の信望厚かつた朱子学の祖・林羅山は、その徳を讃えられ家康から二ノ瀬の地を拝領しました。羅山の孫の林鳳岡がその功績をたたえ、その地の庄屋であった今江家に依頼して家廟である「奉先堂」を一六七四年に建てました。江戸時代までは続きましたが明治維新になって荒廃し建物は破却されましたが、一七五八年(宝暦八)建立された奉先堂碑だけが現在残っています。碑は典型的な形をしていて、一番上に奉先堂と篆刻され、その下に碑文が刻まれています。現在なお、山深いところに最古の碑が建てられていること自体が、京都文化の重層性、

奥深さを物語っています。

地理的な分布をみると、都心部に偏在し、中京・上京・左京・下京に約七割が集中しています。山科区には、山科の教育の父と呼ばれた「矢部文載紀念」碑が山階小学校内に一基、南区には「綜芸種智院蹟」碑等二基が所在しています。左京区が三位となっているのも特徴的で、大学や儒学・漢学等関連碑など教育的・文化的土壌がうかがえます。

建立者については、公的な団体・機関が約35%、私的な団体・機関が42%、個人が16%となっています。京都ならではの公的建造者の一つに「京都市教育会」があります。勿論現在の教育委員会とは全く別の組織です。明治以降に教員の自主的な研究会として各都道府県等に設置されましたが公的な関わりが強かったのが、公的団体としています。明治三十一年に市政特例が撤廃され、京都市教育会が京都府教育会から独立し明治三十五年二月に発足しました。大

正から昭和初めにかけて建碑事業が行われ、七十四基の碑が建立されました。皆さんがよく目にされる幕末維新の関係碑や藩邸跡碑などの史跡関係のもので、その内、教育碑は十八基あります。民間団体として特徴的なものは「京都史蹟会」です。大正二年から平成九年まで活動していました。その組織を立ち上げられたのが西村吉右衛門（千吉十一代目）です。京都文化に興味・関心が高く、二十九基建立されたことが確認されています。内、教育碑は五基あ

ります。「個人」としては、「三宅安兵衛遺志碑」があります。三宅安兵衛（西陣の織物商）の遺言をうけ、その子の清治郎が京都市だけでなく山城も含めて四〇〇基以上の碑を建立（一九二〇年代）しました。元花園大学の中村武生先生が現在二七七基を確認されています。教育碑では「綜芸種智院蹟」碑があります。正に、個人の篤志家による社会事業と言え、京都の凄さを感じさせます。なお、これらの碑は、いずれも、固有名詞、建立年月日、建立者の名しか刻まれていない石柱形式となっています。

次に、教育の発祥の地京都に関連する碑を幾つかご紹介します。

①「日本最初小学校柳池校」碑
京都市立京都御池中学校の西側に「日本最初小学校柳池校」の碑が建立されています。明治二年わが国初の小学校として創設された六十四校の番組小学校のトップバッターとして設立された前身の上京第二十七番組（柳池）小学校の開校を記念しています。実は、同じ日に下京第十四番組（修徳）小学校も開校式を行っていました。全国に学制が發布された明治五年の三年前のことでした。

この地には、「日本初の幼稚園遊嬉場」（幼稚園）の石碑も建っています。明治八年十二月、柳池校内にわが国初の幼児教育施設として開園しましたが、残念ながら一年半で途絶え、日本初の名誉は現在のお茶の水女子大付属幼稚園に譲ることになりました。もう一つ、明治四十五年に市立商工補習

（夜）学校としてスタートした「堀川高校専修夜間部跡」の碑もあります。京都市では定時制はもとより商業・工業・美術・音楽等の実学が早い段階から地道に取り組みできたことが窺えます。

②番組小学校の開閉校に関わる碑
こうした番組小学校の開閉校に関連する碑が二十八基あり、先日、有隣小学校にも碑ができた二十九基になっています。戦後新制中学校へ十二校が転用され、この間大規模な学校統合が大都市部に例のない規模で進展してきました。今年四月段階で七十二校の中学校が十九校に統合され、概ね四校に一校が統合されたことになりました。他都市から来られる方が京都でなぜ統合が進むのかと尋ねられます。子どもたちの教育、学校をどうするか。地域をどうするか。という教育的見地に立った議論が尊重（京都式方式）されてきました。その結果、昔のままの形で残っている番組小学校は現在四校（京極小・乾隆小・翔鷹小・正親小）のみになっています。一例を紹介すると、元初音小学校の地に、「翔鷹小」という初音記念碑があります。上京二十六番組（初音）小学校として開校し、戦後の学制改革で初音中学校に転用、その後柳池中学校と統合し閉校となりました。その碑文に「翔鷹小」という初音とは、この機を新たな出発と捉え、比翼を伸ばす発展を祈念した言葉である。」とあるように、新たな学校・学区を比翼として発展を祈念する統合の精神が刻まれています。跡地には京都市教育相談総合セン

ター、洛風中学校（不登校の子どものための中学校）、万華鏡ミュージアムが設置され、都心部における子どもたちの心の居場所、市民の憩いの場となっています。

③女子教育の発祥に関わる碑

「本邦高等女学校之濫觴 女紅場址」の碑が丸太町橋西詰南側にあります。明治五年開校した「新英学校及女紅場」の開校を記念したもので、英学科と女工（手芸・手工）の二科が置かれていました。のち京都府第一高等女学校（現鴨沂高校）へと発展し、高等女学校の揺籃と言われます。なお、女紅場は明治の女子教育の場であり、「新英学校及女紅場」のほかに、番組小学校と同様に番組がお金を負担した「市中女紅場」、当時のすべての京都の花街に設けられた「遊所女紅場」がありました。こうした女子教育に懸ける熱意も京都ならではのと言えます。

④障害児教育の発祥
「京都盲啞院」に関わる碑
市内には盲啞教育の発祥に関わる三つの碑があります。元待賢校が最初に開校した猪熊通下立売下る大町に「日本盲啞教育発祥之地」碑が建っています。上京区第十九組区長熊野谷伝兵衛が、区内の聾啞姉弟の教育を待賢小学校の訓導古河太四郎（初代校長）に依頼し、明治八年校内に日本最初の咽啞教場が開かれたことを記念しています。その後移転して日本最初の「盲啞院」が開校したことを記念するのが東洞院御池上にある「日本最初盲啞院開学之地」の碑です。明治十一年五月二十四日

の開校式には、雨の中の中三〇〇〇人もの人々が市内外から集まるとされ、関係者・市民の熱意が窺えます。運営は市民の寄付金に頼り大変厳しかったようです。遠方の子どもたちは人力車で通学しましたが、当時有料であった四条大橋も盲啞院の子どもたちは無料で通行できたということです。さらに、盲啞院は現在の府庁の南側、「京（みやこ）あんしんこども館」の地に移転し、明治十二年京都府の所管となり日本初の公立盲啞院となりました。これを記念するのが、「日本最初盲啞院創建之地」碑です。盲啞院に関連する碑が三基も建てられていること自体に障害児教育に懸ける市民の篤い思いが表れています。

⑤私学教育の発祥に関わる碑
京都府は私学教育発祥の地でもあります。例えば、「京都慶應義塾跡」碑が京都府内にあります。東京慶應義塾の分校として明治七年二月に福沢諭吉が親交のあった京都府参事横村正直の協力を得て、当時この地にあった京都府中学校の施設の一部を借りて開校しましたが、生徒が集まらず一年ぐらいい閉鎖されてしまいました。福沢諭吉は明治五年に京都の番組小学校や女紅場、中学校をつぶさに視察し、宿舎に帰り一日で「京都學校記」を著しました。その最後に、「この學校を見て感ぜざる者は、報國の心なき人といふべきなり。」と記され、諭吉の感動の様が伝わってきます。この感動が、京都の地に自ら学校を創ることに繋がったのではないのでしょうか。他に、「佛

教大学建学之地」、同志社大学の発祥を示す「同志社英学校第二寮跡」碑、など多くの碑があり、私学教育も含めた近代公教育の発祥の地としての京都の姿を示しています。

最後に

碑（いしぶみ）は貴重な文化資産であり大切な市民の財産です。しかし、時がたつにつれて管理者、建立者が不明になりがちです。管理者が不明な碑ほど保存状態が良くなり、欠けたり、半分に割れたり、傾いたり、他の場所に移されたり、行方不明なっている、碑がなくて高札だけが残っているものもありました。これら一つ一つの碑を大切に管理し、次の世代に引き継いでいかなければなりません。特に全く何の碑かわからないものについては、建立趣旨等を記した駒札やキャプションを付すなど適切な手立てを講じることが喫緊の課題であると考えます。ただ、それらの経費を行政がすべて負担するのではなく、NPOや民間セクターの力と協働し、市民ぐるみで守り伝えていくことが望まれます。そして、ただ守るだけでなくより学校教育や市民の生涯学習で活用できるよう教材やリーフレットなどを整備していければと考えています。また、教育碑だけでなくいしぶみ全般についての博物館等関係機関のネットワーク構築されていくことを期待しています。

第三回講演会 平成三十一年一月二十七日(日)

日野富子と京の町

京都橘大学名誉教授

田端泰子氏



田端泰子先生には、昨年度に引き続き沢山の資料をもとに日野富子の実像に迫るご講演をしていただきました。講演内容の一部となりますがご紹介します。

1. 日野富子の評価は悪女として定着している

今日は、「日野富子と京の町」というテーマで応仁の乱の時代を中心に日野富子という將軍の正室が、京の町とどのように関わっていたかについてお話しします。日野富子は、今まであまり良い評判の女性ではなかった。日野富子に関する資料を調べていますと考え直さなければならなかった点がいくつか見つかりました。その点を中心にお話させていただきます。日野富子の生涯について、大抵悪女と評価する研究者や小説家の方が多くいました。日野富子は

褒められた方は、私以前はほとんどいませんでした。

一例をあげますと、昭和五十八年（一九八三）『歴史への招待』NHK出版三十一に「応仁の乱 蕃財の女王 日野富子」というタイトルでお金を貯めた女性だと書いてあります。その理由は何かというところ「夫を軽んじ、我が子可愛さから京の都に戦火を招き、ひたすら私腹を肥やし続けた天下の悪女。八代將軍足利義政の妻・日野富子ほど歴史上悪評の高い女性も珍しい。果たして富子は、強欲な金の亡者か、才気あふれる女実業家か……」と始まっています。こういう疑問を下にこの本は構成されています。読んでみますと一九八三年頃には、ようやく女性の実業家がはつりばつり出てきたところで、そういう見方をすることもありうるかもしれないが、室町時代に身を置いたときに果たしてそういう評価でいいのか。その資料を当たった時にそういう評価でいいのかどうか大変気になるところです。

例え、応仁の乱の原因をつくつて京の都に戦火を招き、山田と結んで義尚を次の將軍にしようとしたことが応仁の乱の一原因といわれることが多いですが、その資料はございません。その逆の資料が出てきました。むしろ富子は、応仁の乱の最中に細川方のお屋敷で出産しており、西軍の山名が將軍に立てたのは反対側の義視のほうとされています。これは当たり前かもしれません。もう一つは私腹を肥やし続けた点ですが、私財を蓄積しただけでなく増やしたことを示す資料はありません。奈良の僧、尋尊の大乗院寺社雜事記の日記『尋尊大僧正記』に米蔵を立て、米商売をしようとしていたという有名な資料があります。尋尊大僧正は書き方に特徴があり、自分で開かれたときは断定的に書いています。この資料や人から聞いたものは「そういうわれている」と必ずついています。この場合も「云々」と人から聞いた話と書いてあります。その後の展開についても一切言及がありません。これも今まで信じられてきた資料ですが怪しい資料となります。奈良にいて京都の正確な情報を掴むのは大変難しいことです。この時代の先行研究者の意見に対して疑問を感じてきた私は、初め上層階級の人たちにあまり興味がありませんでした。むしろ上久世の庄や山科の農村の研究、一般の人たちの暮らしはどうであったかを研究していました。

2. 山科の中世史を紐解く中で分かったこと

山科の香水寺は、中世（高水寺）にありました。保元年間（一一五六～五九）山科の小山にあった寺だということが絵図に残っています。中世の終りに近いころ横川景三という相国寺鹿苑院の有名なお坊さんが書いた『京華集』という書物があります。その『京華集』に「高水寺は山科音羽の郷小山に在り。蓋し、従一位夫人（日野富子）の山莊也、西山玉巖首座を以て、住持を主らしむ。殿に千手の像を安んず（千手観音）、清水寺の大工と同材・同作なり。靈驗比類なし、去る歳の秋夫人車駕を寺に入れ、乃ち此の山に登りて和歌二編を詠す。国人を榮とす。初の一編は鹿を詠じ、後の一編は瀑（滝）を詠するなり。清水と曰い、音羽川を以て源と為すと云々」と書かれています。これは山科の小山、今の牛尾観音に違いないということがはつきりました。牛尾観音にあたる千手観音像を安んじた人は日野富子であることもこの資料ではつきりました。横川景三は文明四年（一四七二）～明応二年（一四九三）までいた人で、富子と同じ時代に生きた人です。別の研究をしておりますと文明十三年（一四八二）八月に富子は高水寺の再建に取り組んだという資料が出てきました。山科家は応仁の乱を避けて近江の国に逃げていたのですが、家来が山科の地に留まり日記を書き残しています。文明十三年は応仁の乱が終息した後ですが、一般の人たちにお寺を建てる税金をかけても素直に受け入れられるような状態ではなかった。幕府の威信はすごく失われていたわけですから。どれだけの人が協力したのかと資料を見ますと、富子が山科七郷全体に高水寺普請人夫二〇〇人を課しています。七郷は反対するでもなく協力しています。七郷は九月十二日五十二人、

十五日三十六人、十六日三十六人、十七日二十一人、十八日十五人、合計一六〇人が人夫役を務めたことが分かりました。つまり富子は高水寺の再建に協力しているのです。これによって、山科七郷の人たちは富子に好意を持っていたことが分かります。高水寺が再建され、千手観音が安置されました。この時代の女性には特に観音信仰が広まって、西国三十三か所観音を拝んで旅をするとか、高貴な女性に皆観音信仰することが流行っていました。その一つになるような立派な観音さんが安置されたことは大変名誉なことです。山科七郷の人々は、富子に対して悪意ばかりを持っていたのではないことをこの資料から発見することができました。それで、もう一度、富子の実像をもう少し遡って考えてみようと思ひ立ち資料を探しました。

3. 御台所富子の実像

宝徳元年（一四四九）足利義政が征夷大將軍となり、六年後（二四五五）に富子は義政と婚姻して正室となりました。長祿元年（二四五七）と寛正元年（一四六〇）に大飢饉が起り、『新撰長祿寛正記』に「骸骨衢二満テ道行ク人アワレヲモヨサズト云ウコトナシ」、「世上三分二餓死ニ及ブ」とあり、人口が三分の一に減少したことになります。正確な統計はありませんが大変な飢饉がおこりました。別の資料（『群書類従第十九輯『異本紀河原勘進猿楽記』』）に、飢饉後の寛正五年（一四六四）四月五日能七番・狂言六番、七日能七番・狂言六番、十日能十二番・

狂言十一番、紀河原の勘進猿楽の資料が残っています。演者は音阿弥観世座。紀河原勘進猿楽の舞台は円形に作られ、舞台の正面に神の座敷があり、神の座敷を中心に左側に公方（將軍義政）御成、右側に上様（富子）御成とあります。將軍と富子の座席は対等な形で設えられ、舞台の棧敷席に御所様（義視）や大名、お公家様三十六人いて末席に勘進聖がいます。何故、勘進聖がいたかというが鞍馬寺修繕の寄付集めをするための猿楽だったからです。棧敷席の後ろから沢山の民衆が集まって観ています。この勘進猿楽の当時の評価は、京都相国寺鹿苑院内の蔭涼軒主日記『蔭涼軒日録』に「四月五日午後御成、能は七番、之を観る者若しくは千人、挙ぐべからざる数也」「公方の御威勢に人又服し、天又感じ」観た人は「壯観」と感激し、「千載一遇」と喜んだとあります。この頃以降の將軍家は、三つの家からなつていたと結論づけられます。それは応仁の乱が終る頃、文明九年（一四七八）に大内政弘氏の礼物進上の記録があります。公方（義政）へは、四三〇貫文（国安堵、四品御免、当年御札）公方御倉は定泉です。上様（富子）へは、三四〇貫文（御判、四品、御内書、十月十二日の御札、当年御札、下国之時宜に就いて、この場合も御倉は定泉ですが、公方と別々に管理されています。御方御所様（義尚）へは、三〇〇貫文（御札、御判、当年御札）中村倉へ納む」と記録が残っています。この資料からも応仁の乱を終息させるのに一番尽力したのが富子であると透けて見えてきます。

4. 御台所富子の執政

（文明六年から九年七月まで）

この間の最大の課題は、天皇家の居所（内裏）の修造でありました。当時の天皇家の居所（内裏）と將軍家の居所はどうであったか等については、田端泰子著『室町將軍の御台所』吉川弘文館二〇一八年版を購読してみてください。

5. 応仁元年以降の京都と京郊について

応仁の乱の要点を簡単にまとめますと応仁元年一月、畠山政長方が管領をやめた途端に市街に放火し、略奪をはじめたことにより応仁の乱が始まります。政長は自邸を焼き、出兵するも義就方が勝利します。私は畠山政長が一番悪いと思います。五月、東軍に細川勝元、西軍に山名持豊が並び立ち、交戦翌日、上辺から二条まですっかり焼亡してしまいます。六月、京中は食糧難となります。七月から十一月の間の京中は、百余町の火事で三万余が灰燼に帰したと記録に残っています。合戦が終わってよさそうですが終わらせません。応仁二年二月に幕府は山科七郷に東軍として従軍命令を出します。幕府の命令には断れなく参戦します。三月、東軍は骨皮道賢（実名でない）が西軍を攻め、糧道を断たれます。下京も焼けます。五月以降は、東西両軍の合戦と放火が繰り返され、同二年に藤森、嵯峨、山科、鹿ヶ谷、西岡、木幡等が全部焼けます。十一月、西軍は義視を將軍に迎え、幕府が二つ並び立つことになり、文明元年四月には西岡（上久世）で合戦が起こり放火があ

り、だんだん周辺部に合戦が広がっていきます。七月には清水寺、建仁寺など東軍に焼かれます。東軍も悪いことします。文明二年の正月から戦場は山崎、勝龍寺、鳥羽、淀、八幡へ広がっていき、山科では七郷中六郷が西軍に焼かれます。これもひどい話です。資料上はこのようなになっています。

以上のことをまとめますと次のようになります。

- ①合戦と放火による被害は大変大きく人々が暮らせない状況になります。合戦により起きた被害に對して幕府は何も援助してくれません。お公家さんも自力で再建できないので京都を離れます。一条家は阿波、九条家は泉佐野、山科家は坂本へ避難しました。
- ②応仁元年に京中はほぼ焼き尽くされ、一年で京都の様相は一変しました。
- ③応仁二年以降は、合戦は京郊に移動し、そして、足輕の骨皮道賢とその他の人たちの活躍があり、京郊村落の住民が動員されます。武士同士の合戦であれば、いつか終息するかわかれますが周りの人も動員されたことで合戦は長引き大変なことになりました。
- ④文明初年、京郊からその周辺に被害は拡大していき、被害は甚大となりました。
- ⑤文明五年に細川勝元、山名宗全が死去するも合戦は続きました。
- ⑥富子の斡旋により、文明九年ようやく西軍は軍を引き京の合戦は終息に向かいます。義政が政治を放棄していますので、富子が大内氏だけでなく他の武士にも軍を引くように説得し軍を引かせま

す。大内政弘も領国のほうが危なくなり、戦国大名として周防・長門の地で対処に当たらなければならなくなりました。

応仁の乱を終息させた一番の大きな功績は、富子のほうにあったのだらうと思います。勿論、原因をつくったわけではありません。こういう風にこの時代を見ていきますと富子の実像が、だいぶ違つたように描かれていたと思います。富子と同じ時代に生きた三条西実隆の日記（『実隆公記』）に富子が亡くなったことを「庶人天を仰ぎ言語道断しだいなり、今年五十七歳か」と聞かれています。「（略）富は金銭を余し尊きこと皇妃とおなじ（略）嘆くべし」と富子の死を悼んでいます。富子の生きざまを同じ時代に生きて見守つていたからではないかと思う次第です。資料上から見る日野富子はいくう人ではないかと思っています。

編集後記

今年度は旅館「銀閣」の改修工事に伴い事務所を移転しました。講演会中心の活動となりましたが、会員の皆様のご協力により事業を進めることが出来ました。三名の先生を講師にお迎えし、有意義な時間を過ごすことが出来ました。講師の先生からは沢山の事例、調査研究された資料をもとに解り易く、ユーモアを交えてお話をいただきました。講演内容は紙面の都合により要約し割愛しておりますことを了承ください。